

## イモ掘りって楽しい 園児と高校生が収穫交流

「さつまいも収穫交流学习」は10月21日、登米総合産業高校(川上剛弘校長、生徒425人)の実習畑で開かれ、同校農業科の生徒25人とさくら幼稚園の年長組60人がサツマイモの収穫に汗を流しました。

交流学习は、園児と生徒が交流を通じて、農業や自然への興味と関心を深めることが目的。園児や生徒たちからは、さまざまな大きさや形のさつまいもが採れるたびに歓声が上がりました。千葉芽衣さん(産業高1年)は、「園児たちと楽しく収穫できてよかったです。お土産のサツマイモは家でおいしく食べてほしいです」と話しました。



「いっぱいとれたよ」手に持ちきれないほどのサツマイモを収穫した園児たち。たくさんの笑顔であふれました。

## 登米市の秋を奏でる 3年ぶりのなかだ音楽祭

「第29回なかだ音楽祭」(同実行委員会主催、只野正昭実行委員長)は10月10日、登米祝祭劇場で開かれ、約250人が来場しました。

音楽祭が開かれるのは3年ぶり、市内を中心に活動する音楽団体12組が参加しました。演奏者として参加した榊原さえこさん(64)＝中田町要害＝は「本番に向けて試行錯誤を重ねた練習の成果を出せて良かったです。皆さんすてきな演奏で、とても感動しました」と顔をほころばせました。シンガーソングライターの高橋かほるさんがステージの最後を飾り、澄んだ歌声が会場を暖かく包み込みました。



吹奏楽や合唱、大正琴、バンド演奏などさまざまな音楽が会場に響き渡り、演奏が終わるたびに大きな拍手が送られました。

## 協働で地域課題解決 登米でフィールドワーク

「宮城学院女子大学フィールドワーク」は10月27日、登米市役所などで行われ、同大学の学生18人が、地域課題について市との意見交換をしました。

意見交換は「人口減少対策、シティプロモーション、協働のまちづくり」がテーマ。学生の皆さんからは、若者定住に向け廃校を利用したシェアオフィスやカフェのオープンなどの提案がありました。伊豆沼農産では、6次産業化と農村産業の構築について意見交換した後、ウインナー作りを体験。現地を訪れ、地域の実情を体験する「フィールドワーク」を通して、地域課題の解決に向けたまちづくりを実践していきます。



「くんべる食農体験教室」で県内産の豚肉と天然の羊腸、特製のスパイスを使ったウインナー作りに挑戦しました。

## 皆でまちをきれいに 中学生も参加し清掃活動

「地域をきれいに宝江クリーンキャンペーン」(宝江コミュニティ運営協議会主催、千葉光夫会長)は10月15日、宝江ふれあいセンター周辺で実施され、25人が参加しました。

クリーンキャンペーンは、同協議会が進める地域づくり計画の一環として企画。宝江地区の中学生や保護者に参加を呼びかけ、通学路などのごみ拾いを行いました。近藤蓮さん(中田中2年)は「想像以上のごみの量で、こんなに捨てる人が多いのかと驚きました。これからは機会があれば参加して、自分たちのまちをきれいにしたいです」と笑顔で話しました。



当日は宝江地区の中学生が多数参加。夏が戻ったような暑さの中、大人たちに交じって一緒に汗を流しました。

## ヒロインになりきり ドラマロケ地バスツアー

バスツアー「おかえりトメ」(同実行委員会主催、斉藤恵一実行委員長)は10月30日、市内で開かれ、全国から36人が参加しました。

「おかえりモネ」放送終了から1年が過ぎましたが、市内では今でもロケ地を訪れるドラマファンで盛り上がりを見せています。ツアーは登米町の寺池園や北上川などを巡り、参加者はドラマの世界に浸っていました。高橋さや香さん(42)＝佐賀県佐賀市＝は「個人ではなかなか体験することのできないファンの心をつかむプログラムに感動しました。登米市の美しい風景は、ドラマのイメージどおりでした」と話しました。



昼食時にはドラマに出演した大島蓉子さんがサプライズで登場。はっと汁を振る舞う姿に参加者は歓声を上げました。

## 官民一体で活性化を ロケ地活用を考える講演

「ドラマ舞台地のこれからを考える講演会」は10月15日、長沼ボート場クラブハウスで開かれ、50人が参加しました。

講演は、日本唯一のロケ地情報誌「ロケーションジャパン」の山田実希編集長を講師に迎え、全国各地の映画やドラマの舞台地の状況などを紹介しながら、今後の市の盛り上げ方などについて講話しました。ロケ地巡りに併せて講演会に参加した菅野京子さん(41)＝兵庫県尼崎市＝は「訪れる側と迎える側、双方の観点から考えるPRの工夫は、自身が仕事する上でも大変参考になりました」と話しました。



山田編集長は「自然や歴史など登米市は魅力にあふれています。皆さんで積極的に地域を盛り上げてほしい」と話しました。